

## 1. 文化発信のための国内基盤の整備

(日本人自身が日本文化の良さを再認識)

- 世界の中の日本文化の位置付けの明確化
- 伝統文化がどこから出てきたかを整理し、現代の文化芸術への連続性を示す
- 日本文化の魅力を日本人自身が認識するためのしくみづくり

(人材の育成・活用)

- 国際的な場で文化に関する発言ができる人材の育成
- 国外で様々な交流活動の経験のある日本人のネットワーク化
- 初等中等教育や大学の教養教育における文化芸術に関する内容の充実
- 日本語教育の専門家の育成
- 教員の文化芸術に対する理解の促進や外国へ目を向ける態度の育成
- 文化芸術の振興に関する功労者の顕彰をより若い世代に
- 国内のアーティスト・イン・レジデンスにおいて外国人アーティストを受け入れるための人材の育成

(文化拠点等の整備)

- 伝統工芸に関する拠点(常設展及び研究センター)の設置
- 「クリエイティブ・シティ」の形成

## 2. 日本文化の効果的発信

(発信するものとその創作等への支援)

- 本格的な海外展等がコンスタントに開催できるような仕組みづくり
- 世界的に人気のあるアニメ等の分野を足がかりとして、日本の伝統文化を発信
- 海外向けの国産映画製作への支援
- 海外発信を意識した作品の制作への支援
  - (例)・海外作品への日本的な演出の付加
  - ・古典芸能への現代的な演出の付加
- 日本人の異文化への理解力の宣伝
- 民間が中心となって推進する分野と伝統文化などの国の支援が求められる分野を区別
- 流通することで海外へ紹介できる文化と実際に日本で見てもらわないと紹介できない文化など文化の性質に応じた発信方法の検討
- 企業メセナの広がり、市民の発信力の促進

(発信のしかた)

- 日本文化を発信する多言語でのホームページの充実

- 海外の日本人学校の活用など発信拠点の開拓
- 世界的なフェスティバルの開催
- 日本の戯曲の海外での現地俳優による上演
- 海外へ日本の作品を紹介する事業への支援
- 海外の文化遺産の修復協力(及びそのための組織整備と専門家育成)と日本の貢献が分かるようなアピール
- アジアとそれ以外の地域との交流をコーディネートすることにより、日本の存在感を発揮
- 情報の受け手のニーズを把握(相手の選び方の工夫)
- 海外で芽生えている日本への関心をきめ細かく把握し、対応
- 外国の知識層に対する日本文化の発信
- 国際放送の活用
- 日本語教育拠点の充実
- 留学生や留学経験者に対する日本文化紹介を充実(例:同窓会組織の活用)
- 国内外での観光案内所での情報提供の充実
- 関係省庁の連携や各省横断的な行政システムの構築

(地域からの文化発信)

- 地域の中でトータル・アート・コーディネートできる人材の育成
- クリエイティブ・クラスを増やすための市民のアウトリーチ活動への支援
- アートと地域がつながることによる地域の魅力の育成
- 観光やまちおこしの連携